

令和8年1月

板橋区史跡公園（仮称）における展示活用施設（ガイダンス施設・産業ミュージアム）の整備及び設置目的について

本事業は、国史跡「陸軍板橋火薬製造所」（板橋区加賀一丁目7および8、下図赤枠線内）の指定地内に残る3棟の歴史的建造物（同青・黄枠線）を保存活用し、燃烧実験室を「ガイダンス施設」（仮称）、旧理化学研究所エリアの物理試験室と爆薬理学試験室を「産業ミュージアム」（仮称）と称す2つの展示活用施設として整備するものである。

（参照：『板橋区史跡公園（仮称）基本構想』2017、14頁参照）



▼燃烧実験室



▲爆薬理学試験室



▲物理試験室

燃烧実験室（S19-20 築）

RC2 階建、延床 513 m²

爆薬理学試験室（S16）

RC 平屋・地下1 階建、延床 240 m²

物理試験室（M40/S6/S13）

RC×煉瓦造×RC、延床 603 m²

（※建築年代は全て推定）

1 両施設の整備に関する基本的な考え方

- ・ガイダンス施設と産業ミュージアムは、ともに史跡および地域の歴史や文化を学習するための補完的施設であり、次項で示すとおりそれぞれの設置目的及び対象分野をもつ。
- ・両施設はそれぞれ来訪者に差別化した学びや体験を提供すると同時に、両施設を合わせた総合的な視点に基づく統一的な整備や管理運営が必要となる。
- ・対象となる歴史的建造物は、史跡の構成要素としての価値を尊重し保存と活用を両立した上で整備を行う。
- ・板橋区史跡公園（仮称）内だけではなく、周辺地区や区内の各施設（近隣の学校、公園、郷土資料館、教育科学館等）との間で役割分担や連携協力を行い、来訪者に対して総合的な観点から両施設ならではの体験を提供し得る整備をめざす。

2 ガイダンス施設と産業ミュージアムの設置目的と主な対象分野

	ガイダンス施設	産業ミュージアム
エリア	燃焼実験室 (旧野口研究所)	物理試験室・爆薬理学試験室 (旧理研究所)
設置目的	史跡に対して関心に幅のある多様な人たちが、それぞれ史跡の“本質”を考え対話するための情報拠点。	未来産業の創造に向けたブランドストーリーを区内外に発信していくことで、区産業に対する期待感の醸成を図り、板橋の産業ブランドの向上を図っていく。
主な対象分野	主に歴史、文化、社会	未来社会の姿 サイエンステクノロジー

※本計画は令和8年1月時点のものであり、事業の進捗に伴い変更になる可能性がある。

※「ガイダンス施設」および「産業ミュージアム」の名称はいずれも仮称である。

以上